潮来市の誇れる自然 第90回

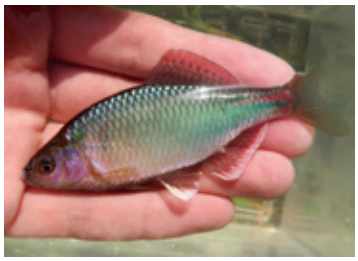
水郷の魚たち―タナゴ類

夏休みが近づいた水郷・潮来は、多くの釣り人で賑わっています。水郷で釣れる魚といえば、コイやフナ、スズキ、ブラックバスなどが一般的ですが、今回ご紹介するのは少しマイナーなタナゴ類です。タナゴ類は手のひらサイズで、鮮やかな色彩と可憐な姿から釣りの対象として密かに人気があります。タナゴ釣りの起源は江戸時代にまでさかのぼります。一説には「世界最小の釣り」とも言われ、1㎝にも満たない小さな針とウキ、そしてシモリ玉を組み合わせた精巧な仕掛けが使われます。船溜まりや田んぼの水路で小さなウキをじっと見つめている釣り人がいたら、それはタナゴ釣り師かもしれません。

タナゴ類はコイ目コイ科タナゴ亜科に属する淡水魚の総称です。かつて潮来周辺を含む水郷地帯ではアカヒレタビラ（写真1）、タナゴ（マタナゴ）、ゼニタナゴ、ヤリタナゴなどの在来タナゴ類が多く生息していました。タナゴ類はイシガイ科の淡水二枚貝（写真2）の鰓内に産卵し、子どもがある程度成長したら泳ぎ出ますが、かつてはその二枚貝も多くみられました。

ところが近年、二枚貝の急減をはじめとする環境変化によって在来タナゴ類がほとんどみられなくなってしまいました。在来タナゴ類の個体群の存続には、①タナゴ類そのものが住める環境と②二枚貝の生息環境のほか、③二枚貝の幼生がハゼ類やドジョウなどの鰭に寄生して成長することからそれらの魚種の生息環境も必要とされます。在来タナゴ類は生物多様性に富む水郷の水辺環境のシンボルとも言えるでしょう。在来タナゴ類の生息地の保全や再生、そして伝統的な釣り文化の継承にも取り組んでいくことが望まれます。

茨城大学大学院理工学研究科博士前期課程
加藤皐太



（写真1）霞ケ浦流入河川で採集されたアカヒレタビラ

（写真2）タナゴ類が産卵するイシガイ科二枚貝類(タテボシガイ)

地域おこし協力隊通信 第73回

あやめまつりでアンケート調査を実施しました

リポーター：東條秀祐 隊員

5月末から6月中旬のあやめまつり期間中に、観光客の皆さんを対象としたアンケート調査を行いました。

あやめまつりは、潮来市を代表する観光イベントで、毎年多くの方々にお越しいただいています。一方で、「滞在時間が短い」「他の観光スポットとの連携が十分でない」といった課題も見られます。これらの改善は、今後の観光の発展にとって重要です。さらに、観光客の約4割以上が6月に集中していることもあり、季節を問わず訪れていただける「通年型観光」の推進も大切だと考えています。

昨年度の協力隊による調査からは、多くの来訪者が「一時的な訪問」にとどまっていることがわかりました。今後は「年間4回以上の来訪」や「ふるさと納税を通じた関わり」など、より深い関係性を持っていただける人を増やしていく必要があります。

今回の調査は、あやめまつりをきっかけに、他の観光地や特産品への関心を高め、再び潮来に足を運びたくなるような観光地づくりを目指すものです。

アンケートにご協力いただいた方には抽選会に参加していただき、一等に当選された方にはうなぎをプレゼントしました。他の皆さまにもノベルティやパンフレットもお渡しし、潮来の魅力をより深く知っていただけるよう工夫しました。